

みなみいず 町議会だより

No. 34号

2008年

平成20.8.1



2008年 愛国米の田植え

愛国米(南伊豆町原産のお米)
つくばのシードバンクに保存されていたもの。
こしひかりなど、日本のお米の親。

- 6月定例会……………2～3
- 一般質問……………4～7
- 議会の動き、一口メモ、くろ潮…8

平成20年 6月定例会

共立湊病院を 公的病院として現在地で存続・充実を求める決議

2008(平成20)年5月2日



共立湊病院は、旧国立湊病院(戦前は海軍病院)当時から、賀茂郡下唯一の公的医療機関として、伊豆半島先端の医療過疎地域の基幹施設としてその役割を果たし、地域住民に親しまれてきた。

国立病院等再編成計画のもと、平成9年10月より賀茂郡下7市町村(当時)が国から移譲を受け、社団法人「地域医療振興協会」に運営を委託する指定管理方式で運営が行われている。

伊豆半島先端の過疎地域に位置する唯一の公的医療機関としての役割は、以前にも増して一層大きく重くなっている。

高齢化率が高い地域の特性から求められている循環器系診療科・悪性新生物(がん)対応・脳疾患・心疾患対応や子育て世帯を支える小児科・産科医療体制の充実が圏域住民の悲願である。

救急医療は、ドクターヘリが導入されたが、第3次救急医療施設まで夜間や天候によっては救急車が頼りである。郡下市町からは全て天城山系の峠越えが不可欠で、所要時間は半島先端の南伊豆町では2時間を要し、伊豆医療圏域と共立湊病院の救急医療の充実は大きな課題である。

このような中、共立湊病院の建て替え計画の議論で下田市内等への移転の動きや民営化の検討が出ていることは、伊豆半島先端の南伊豆町に生活する住民にとって極めてゆゆしき事態である。

本年2月6日、地域医療振興協会は、病院組合編成市町首長会議の場で撤退を表明したが、この事は地域住民に大きな不安を与えた。



その後地域医療振興協会は共立湊病院組合との間で3年間の医療受託契約を締結したが、共立湊病院の建て替え計画に求められている課題は、第一に、伊豆医療圏域が、起伏の多い伊豆半島先端地域であるという地理的特性を重視した観点。

第二に、高齢者が多い医療圏域で、公的役割を持つ中核病院として検討されること。

第三に、数年前から欠けている東賀地域の第2次救急体制を確立することは急務で、ドクターヘリ運行で欠ける部分を補う2.5次救急体制の充実を図ること。

第四に、共立湊病院の移転は、約1万人を抱える南伊豆町・地域住民にとってベッド(病床)を抱える医療施設が無くなることである。

現在、西伊豆地域と下田市には一定のベッド数を確保した医療施設があるが、南賀地域では唯一、旧国立湊病院・共立湊病院が半世紀以上にわたってその役割を果たしてきているのであり、移転は、新たな医療過疎を作り出すことになり、断じて許さない。

第五に、伊豆半島先端地域に医療機関が少ない中で公的役割をもった病院の存在は、住民に責任を持った医療を確保する上で極めて重要である。伊豆半島先端に生活する全ての南伊豆町民の生活に責任を負う南伊豆町議会は、共立湊病院を、現在地で公的病院として一層充実・発展させる計画実現のため全力で奮闘するものである。

共立湊病院の移転計画は、絶対に許せないことであり断固反対する。

以上、決議する。



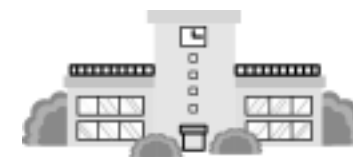
平成20年6月定例会は、6月9日から12日の4日間開催されました。

一般会計補正予算(第2号)、専決処分の承認を求めることについて(南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例)、南伊豆町立小学校の統合に伴う関係条例の整理に関する条例制定について、計3件が上程され原案どおり可決(承認)されました。

補正予算の概要 (単位:千円)

会計区分	補正額	補正後総額
一般会計補正予算(第2号)	2,700	4,142,336

条例制定・改正



▼専決処分の承認を求めること(南伊豆町税賦課徴収条例の一部を改正する条例)

地方税法の一部を改正する法律(法律第21号)が平成20年4月30日に衆議院本会議で再可決成立し4月30日に交付施行されたことにもなうもの

▼南伊豆町立小学校の統合にともなう関係条例の整理に関する条例

南伊豆町立竹麻小学校を南伊豆町立南伊豆東小学校に改め、南伊豆町立南崎小学校 南伊豆町大瀬7番地を削るもの

第2回臨時議会

5月2日臨時議会が開かれました。

臨時議会では、南伊豆地区1市3町合併協議会の設置議案が提案され、賛成6反対4で可決されました。なお、3人が反対討論を行いました。

また、共立湊病院を公的病院として現在地で存続・充実を求める決議が、10人の賛成で可決されました。

▼繰越明許費繰越計算書の報告

妻良等漁業集落環境整備事業特別会計に関する繰越明許

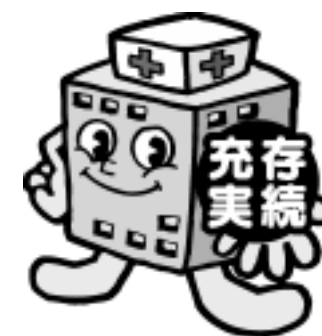
▼南伊豆地区1市3町合併協議会の設置

南伊豆町、下田市、河津町、松崎町をもって南伊豆地区1市3町合併協議会を設置することについて

決議

▼共立湊病院を公的病院として現在地で存続・充実を求める決議

(全文は次ページ)



一般質問



竹河十九巳議員

行財政改革と 住民サービスについて

竹河 後期高齢者医療制度導入について、町民からの疑問・苦情・相談はどのようなものがあつたか。その対応はどのようにしたか。

竹河 住民の声を聴くよい機会である出前講座に望むときの町としての姿勢について、町長はどのように指示しているのか。

町長 被保険者証に関するものが一番多く、これまで再交付を51件行っており、保険料についての問い合わせは少数でありましたが、それぞれ説明して納得していただいております。

町長 職員には町民の視点に立つて、どのようにしたら町民にわかりやすい表現ができるかなど日々研鑽に努め、また、町民の声を真摯に受け止めて今後の業務に生かすよう指導しているところでもあります。

竹河 より質の高い住民サービスをするには地方分権に対応した専門職の確保が必要となるが、確保できているのか。

町長 職員の削減を推進する中、地方分権に対応したより高度な専門職員の配置には対応できないことが現状であります。

竹河 住民から、窓口で相談するときプライバシーが守られていないという声が届いているが、どう思うか。

町長 窓口の相談は住民サービスの根幹をなすものであり、職員一人一人が窓口相談に来られた住民のニーズにあつた対応を心がけて仕事に当たっていると認識しています。

竹河 職員が受けた住民からの声が町長に伝わり、検討した結果が住民に説明されるようお願いしておきます。

教育諸問題について

竹河 教材の購入費用は一般財源化されており、予算措置率はどのくらいになっているか。

教育委員会事務局長 教材費としての仕訳はありませんが、額はわかりません。

竹河 学校だけでなく公の営造物の点検について、安全点検を実施しているのか。



稚園・保育所の遊具等の安全点検でございますが、専門業者による年3回の点検を毎年実施しておりますが、現場におります教職員、保育士においても細心の注意を払うよう再度喚起をしております。

竹河 通学路の安全を確保するという視点から、道路を点検して防犯灯の設置箇所を点検したらどうかと思われませんが。

町長 今後緊急性の必要なところから随時進めていきたいというふうと考えております。

町長 各保育所・幼稚園・役場庁舎・中央公民館につきましてはは診断を実施しておりませんが、耐震性はなと思います。平成27年度までに耐震化を図るよう県から通達がでております。次に小中学校の運動具、幼

竹河 財政第一・予算・お金を理由に町民の生活を破壊しないように、町民が安心して安全に暮らせるよう知恵と知識と感性を持って、心ある町政に臨んでもらいたいことを町長に要望します。

観光問題を考える



長田美喜彦議員

質問 我が町は、観光立町であります。菜の花とみなみの桜では、前年度を3%上回るイベントに成長したことは、大変喜ばしいことでありますが、この先、誘客等をどのように考えておりますか。

質問 ハイビスカスロード等の計画が進んでおります。町当局は、どのような支援を考えておりますか。

町長 花の拠点づくりを目指そうということで、観光協会など、関係の皆様と協議しながら、推し進めて行きたい。

質問 11月1日・2日の秋祭り。少子高齢化のため参加者が減っている。土日に変え、観光に結びつけることができないか。

町長 祭典は昔から尊い先人たちが豊年豊作祈願や感謝、明るく住みやすい地域にと願いを込めてお互いが



産業観光課長 夏型の観光から、通年型の観光にシフトして行く素材が豊富にあり、ブランド化して観光客の増につなげていく。

協力し合って築き上げてきているもの。今後は、観光の面でもということを入れて取り組んでいきたい。

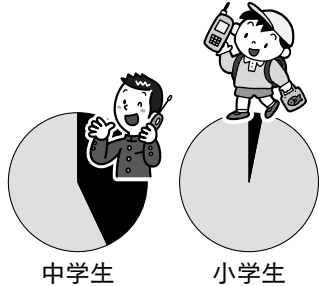
子どもを取り巻く ネット社会を考える

質問 新聞では県教委は7月から保護者や教職員を対象に子どもを取り巻くネット社会の現状と対策を考えると載っていました。

町の中学生が携帯を持っている数、またメールによるいじめなどの問題は起きていませんか。

教育長 これは今の生徒指導といえますか、現在のナンバーワンは完全に携帯電話の関係だと思えます。

教育委員会事務局長 現在小学校児童で412人中13名、約3%です。中学校では214人中92名、約43%が持っております。



中学生

小学生

メールによるいじめはないということですが、

学校では、学校に持ってこない、やむなく持ってきた場合は先生に預け、帰りに持って帰るよう指導している。今言うフィルタリング利用を学校のほうから保護者に対し協力をお願いしていくつもり。



(仮)観光交流館イメージ





横嶋隆二議員

後期高齢者医療制度

質問 参議院本会議で国会

の4野党提出の後期高齢者医療制度の廃止法案が賛成113、反対98で可決された。1院とはいえ施行された法を廃止する法案が可決されたことは歴史的な出来事。国民の激しい怒りと運動が、政党を動かした結果。町長は後期高齢者の医療制度についてどのように考える。

個人的には思っている。

質問 この制度の一番の問題は、医療費削減のために75歳以上の高齢者を差別したこと。今、中曽根元総理大臣が、至急元に戻して新しくもう一回考え直すとか、自民党元総務会長の堀内光雄氏が、一旦凍結してゼロベースで国民的議論をすべきだと言っている。年々医療費が上がるといっても、GDP比8%で資本主義先進国の中で医療費負担は最低水準だ。

町長 ネーミング、年金からの保険料の天引き、低所得層の負担の軽減の問題が実際の調査と発表したことが食い違っていた。お年寄りに対して細やかな気配り、説明がもっともつと必要ではなかったかというふうには

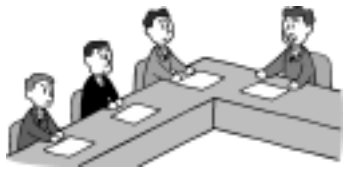
町長 広域連合や町長会で制度に対する意見を述べる方向で今後取り組んでいく。

共立湊病院について

質問 共立湊病院組合議会では、地域医療振興協会との指定管理の契約では正式な議題として、3年間の委託契約と減価償却費の5,000万から3,000万円に減額するという覚書、この2点が公式の議決事項、約束事項ということだが。

町長 そのとおりだ。

質問 であるなら5月12日の病院の建設検討委員会、石井下田市長、桜井河津町長、吉新理事長などが1年以内に建てる約束をしたという。しかも、県議会の場でも1年以内に移転が条件との話が出たが、首長会議での話は密約ではないか。



質問 今年中にやる考えは、公募要綱を決める予定はありますか。

町長 検討していきたい。今建て替え問題が議論中で病院施設の形態、場所、規模、ある程度固まってきたと公募の条件というは出せない。

質問 移設の話も決まっているわけではない、建て替えが決まらないから次の話ができないではなく、町にあるからこそ話をしているとおおかしくない。

市町村合併について

質問 町の合併に関する基本的事項で、発展を目指し取り組むと書いてありましたが、考えの一つとしてどのようなものがあるのか。

町長 協議会で1市3町がともに栄え、発展する合併でなければならぬ。町の将来を見据え、下水道事業、港湾整備や基盤整備、環境

ることに憤りを感じるからだ。合併に賛成の住民でも、病院は現在地と、合併より病院確保のほうが先だと考えている。共立湊病院を法定協議会の中でどのように主張していく考えか。

町長 私はあそこの医療は何としても確保したい。法定協議会には議員も2人入っており、南伊豆の地域医療については地元の議会、町民の声を反映させながら協議を進めていきたい。



町の貸借対照表の公表

質問 財政状況を正しく理解するために、全国の70%の市町村が貸借対照表、行政コスト計算書を公表しており、町はともに公表する予定があるのか。

総務課長 平成22年度決算の公表期限に合うように作業を進めていく。

質問 町を運営ではなくて経営しているという感覚を持つてもらいたい。平成22年度決算では合併した後で、つくる気はないということなのでしょう。貸借対照表をつくって公表するべきだと考えます。

総務課長 前向きに取り組んでいきたい。



共立湊病院について



清水清一議員

質問 共立湊病院は当然町民や利用者に信頼される病院でなければならぬ、新間や病院の建設検討委員会の中では、病院の移設の話ばかりで、医療の質また環境や通院者への配慮の話が一つもない。

質問 指定管理は、公募が原則だ、プレゼンテーションで、地域医療振興協会も当然公募に出てきてもらって、どのような医療をしたというところが明確に指定管理における団体として運営してもらわなければ、病院運営というのをおかしな方向に行ってしまう。

町長 委託管理の公募をしたい、どういった内容で公募、仕方があるのか、病院の議会とかに諮りながら進めていかなければならぬ。

町長 病院の建て替え問題、移転問題を優先して取り組むという状況にある。地域医療振興協会は、平成9年1月から、非公募で指定管理者として、施設の管理運営を任せている。組合議会にも相談し、適切な運営方法について検討してまいりたい。

議会の動き

南伊豆町議会の動き：平成20年5月～7月

- 5月2日 第2回町議会臨時会
- 5月2日 議会全員協議会
- 5月9日 伊豆半島沖地震慰霊祭
- 5月12日 共立湊病院建設検討委員会
- 5月14日 南伊豆町商工会青年部通常総会
- 5月17日 黒船祭記念式典
- 5月19日 静岡県町村議会議長会総会
- 5月19日 交通安全協会南伊豆分会総会
- 5月20日～21日 全国議長・副議長研修会
- 5月21日～22日 例月出納検査
- 5月22日 南伊豆町商工会通常総会
- 5月24日 伊豆つくし会通所施設竣工式
- 5月26日 東伊豆道路建設促進期成同盟会会計監査
- 5月28日 社会福祉協議会理事会
- 5月28日 社会福祉協議会評議委員会
- 5月28日 地方議会議長連絡協議会会計監査
- 5月29日 南伊豆町観光協会総会
- 5月30日 伊豆東海岸鉄道整備促進会議総会
- 5月30日 郡議長会議
- 6月2日 県地方議会議長会定期総会・政策研修会
- 6月2日 議会運営委員会
- 6月3日 地域医療問題調査特別委員会
- 6月3日 議会全員協議会
- 6月16日 第2常任委員会
- 6月16日 議会全員協議会
- 6月18日 平成19年度水道事業会計決算審査
- 6月20日～21日 例月出納検査
- 6月19日 臨時総会並びに議長会
- 6月20日 第1回合併推進委員会
- 6月20日 議会運営委員会
- 6月20日 財政健全化法律説明会
- 6月21日 自衛隊協力会総会
- 6月23日 監査委員会連絡会・研修会
- 6月25日 第2常任委員会
- 6月25日 合併協議会
- 6月26日 県町村議長会会計監査
- 7月1日 議会だより広報編集委員会
- 7月3日 第2回地域医療問題調査特別委員会
- 7月4日 県内監査委員研修会
- 7月7日 第3回臨時議会
- 7月7日 議員全員協議会
- 7月7日 地域自治組織研修会
- 7月10日～11日 例月出納検査
- 7月16日～18日 平成19年度会計決算審査
- 7月17日 講演会
- 7月22日 議会だより広報編集委員会
- 7月23日～24日 議員視察研修
- 7月25日 議会だより広報編集委員会
- 7月29日 郡議長会議

皆さまの声を お待ちしております

皆さまから届けられました貴重な意見、提案等は、「いでゆ」のコーナーに掲載させていただきます。

南伊豆町議会事務局内 広報編集委員会

〒415-0392 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂328-2
TEL・FAX 62-6240

議会一口メモ

地方自治

(住民自治と団体自治)

地方自治とは国による統治に対立する側面を有しており、イギリスで発達した「地域の運営はその地域の住民の意思によって行われるべきという住民自治」と、ドイツで発達した「地域の運営は、その地域に国とは別の独立した自治権をもつ地方公共団体により行われるべきという団体自治」というふたつの概念がある。国は、公正かつ普遍的な統

治構造を維持するため、国家全体の運営について画一的均一的運営を行うことが要請されるが、地域の実情や住民からの要望は各地域によつて様々であることから、これをすべて同一に運営することは不可能であり、地域の運営に当たっては地域の独自性を考慮する必要がある。そこで、地域の総合的な運営は地域に委ね、国は国家に係る根幹的な事柄を担当し、かつ、国家全体の総合的な調整を図るという役割分担がなされることになる。

《谷》



町内どこに行っても、水田には稲がすくすく育ち、里山らしい風景を醸し出している。国会で「生物多様性基本法案」が成立したと報じられ、今まで耳にすることが無かった「生物多様性」について調べてみると、生物はそれぞれ個性を持つと同時に繋がりを持つことを生物多様性というらしい。しかし、開発などによる危機、人の働き掛けが減ることによる危機、外来種による生態系攪乱による危機がクローズアップされていると記されている。我が町を見た時、人の働き掛けが減ったことによる危機が、顕著に現れている気がする。里山は自然ではあるが、人が長い歴史の中で造ってきた人工的な二次自然であり、そこに長年に渡つて生物形態をつくつて来ている。都市生活者から見れば、耕作放棄地や雑木で覆われている我が町は、いかにも自然らしく環境が保護されているように見えるが、人が働き掛けを止めた結果、イノシシやシカ等の生息分布が変わり、農作物への被害が増えている。人も含め、生物の共存がひとたび崩壊すれば、回復には並大抵でない努力が必要であり、我々住民はもとより都市住民も里山の意義を再認識し、「生物多様性」の理解を深めることが重要である。(稲)